



決勝レポート

2024/7/21 Rd-4 FUJI SPEEDWAY

天候：晴れ/曇り 気温：32℃ 出走台数：21台

観客数：20日(土)18,100人 21日(日)31,100人 合計49,200人

三笠宮瑤子女王殿下の賜杯を頂戴し、「第1回瑤子女王杯 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦富士大会」として開催された今大会。夏休み最初の週末は5万人近い観客が「スーパーフォーミュラ夏祭り」を楽しんだ。

昨日に続いて湿度も高く、気温30度を超える真夏日の中、スタート進行として8分間のウォームアップ走行が始まったが、ここで太田選手はエンジンの不調を訴える。

ダミーグリッドで原因を特定しスタートに間に合わせようと作業を進めるが、エンジントラブルが確認され太田選手はこの時点でリタイヤ。決勝をスタートすることが出来なかった。

3列目6番手スタートの牧野選手は、素晴らしいスタートと位置取りで3番手で1コーナーへ。2番手大湯、3番手牧野、4番手野尻は、1秒差以内の接近戦を続ける中、10周終了ピットオープンになると、野尻選手がピットへ。

翌11周目に牧野選手もタイヤ交換を行うと、野尻選手の前でコースに復帰するが、すでにタイヤの温まっている野尻選手を防げず先行を許すことに。牧野選手はその翌周ピットインした大湯選手に対してアンダーカットを成功させるが、ダンロップコーナーで抜き返され、タイヤ交換グループの3位で膠着状態へ。

レース後半、フレッシュタイヤでペースを上げるステイアウト組の坪井選手を抑えきれず1ポジションダウン。その後終盤までポールスタート福住選手との攻防を続けるが、ラスト2周で先行を許してしまい、5位でレースを終えた。

5：牧野任祐 選手 5位

スタートでは位置取り含め3番手と出足は良かったです。ただファーストスティントは結構厳しい感触で、ミニマムの10周目にピットに入る選択もプランにあったのですが、ピットとのミスコミュニケーションもあり11周目にピットに入りました。結果、野尻選手に先行を許してしまったのが大きかったです。

トップグループとのレースペースの差も大きく、この決勝で見えた様々な課題が見えました。改善の余地はまだまだ大きいです。

6：太田格之進 選手 DNS

決勝に向けてのロングランペースについては自信を持って臨むことが出来る感触で、スタートに向けて集中していたのですが、エンジンのトラブルでスタートできなかったのはとても残念です。試練の時が続いていますが、チームでこれを乗り越え、シーズン後半戦で挽回すべく準備をしていきたいです。